

NO. 84 西畑亮一 なぜ、想定内の数値を入力したコンピュータ上の模擬実験で、安全だと言い切るのか。逆に言えば、どうしてそんなことで事故があってもなくても国家の致命傷となる原発の安全性を、確認したいのだろうか。安全の程度を推し量るのに、素人考えだが先月書いたような実験をやってもいいように思う。いや、それに優るものはないだろう。だから問題は、なぜそうしないのかだ。

もともと想定内の数値から得られた、自分たちの都合に合った結論を導くためのシミュレーションだから、想定外の場合も含め危険に対する予防策が生まれるわけもない。また、「安全対策は十分」と言っても、同じ次元の対策であれば、何重もの対策がすべて機能しなくなることもあるんじゃないか。確保したとか評価できるとか整っているとか、口先だけでいろいろと、それも事後の安全対策であって、被爆してからじゃ遅い。被害を被ることが前提になってやしないか。すべきは予防だろう。「国民を守る」と言うのなら、先に守るのでないと意味はない。福島の後が現在こうなのだから、利害関係者以外、野党時代と大臣になってからとでは正反対の発言を公然とする者をいったい誰が信用すると言うのか。眼前の事実をして判断する前に特定の価値判断があるのなら、実験も話し合いも要らない。だから、手を出さない以外に結論の出ない安全性の問題について、儀式のような議論において再稼働推進派の口からは、免震重要棟やフィルター付きベントがないにもかかわらず、「安全対策は十分」という既定の結論しか出てこないわけだ。

「私の責任で判断」と野田総理は言うが、万一の結果責任を誰も取れない事態を、そう言い放つしかないほど危険性が明らかになっている。6月8日の総理会見、確かな国力の計算もなく勢いで始め、みんなが犠牲者となったあの戦争の時と似てやしないか。彼は、何ら客観的根拠のない矛盾した発言をすることで、端から幻である原発の「安全神話」を、反対派批判に使った「精神論」で、それこそ必死に再構築しようとしているように見える。

実証実験しないのには理由があった。素人でも、普通に考えれば思いつくし、他の事例でも実際に行われているそのような実験は・・・実はできない、したくても原発の場合には絶対にできない。模擬実験の数値データを使った議論だけを重ねるだけにしておきたい。なぜなら、それは実験しようとしても実験にはならず自殺行為になるからだ。また、もし施設装置の安全度がある基準で仮に確認されたとしても、施設装置が高性能であればあるほど、それを管理する人間には、それ以上のレベルが要求される。が、原発の安全性が相対的に高まったからと言って、比してそれを管理監督する人間の能力や信用が同じように高まり私たちが安心できるかどうか、はなはだ疑問である。現に今回の事故では、人災の側面が少なからずあったと考えられる。

客観的な実験は不可能（やれば核実験のように安全性ではなく危険性が保証される）であると告白せずに、稼働させることを前提とした（同義 反復的な）想定内の数値を使うコンピュータ・シミュレーションを採用しているのは、ひとえに国民の安全安心ではなく、原発稼働による既得権益を前提しているからだ、と思われるが…これは私の被害妄想だろうか。安全は条件であって、けっして仮定ではない。これまで声を大に安全性と言ってきたのは、実は危険性のことではなかったか。人びとの安全が担保されるのではなく、逆に危険性が推し量れる余地を明らかに残すものではないか。…等々いろいろ考えてしまう。どうかこの素人の妄想を、どこの誰でもいいから、完璧に打ち消して欲しい、お願いだあ～。

「国民の生活を守る」と言うなら、それがその場限りの口先だけでないことを、誰もが納得する形で現在も被害が進行中の被災者らを守って、証明してほしい。それなら職権を以って可能な、私たちの生活に安全安心をもたらす意義ある社会的「実験」となろう。（続く）